進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年 10 月 31 日
● 事　業　名　：　息の長い支援基盤整備事業
● 資金分配団体　：　日本更生保護協会
● 実 行 団 体　：　滋賀県更生保護事業協会

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１　モデル地区の更生保護団体が、「生きづらさを抱えた人達」を支援するための活動（基盤整備を含む）に取り組む	①モデル地区の活動回数	①１年目１２回（１地区年４回×３地区） ２年目２４回（同上×６地区） ３年目２８回（同上×７地区） ②すべてのモデル地区が直接支援につながる活動に取組むようになる	2023.3	① 彦根：２８回（うち直接支援２８回） 守山：３９回（うち直接支援０回） 高島：６回（うち直接支援６回） 大津：６回（うち直接支援６回） 近江八幡：２８回（うち直接支援０回） ② ３年目･･･５モデル地区中、高島、彦根、大津の３モデル地区が直接支援に関わった。	2

２　モデル地区の更生保護団体に対し、協会から伴走支援、困りごとへの対応など、活動を支え、充実させるための働き掛けが行われる	①モデル地区保護司会との意見交換会・協議会等の回数 ②モデル地区から活動や運営などの相談が寄せられるような関係性になっているか	①各年度２回以上 ②モデル地区保護司会から、活動や運営上の悩み事や課題などについて、気軽に相談を寄せてもらえる関係になっている（相談の具体的な内容とその対応が挙げられる）	2023.3	①支援員が各モデル地区を１回以上、巡回し活動視察や支援をした他、エコマップ作りにも参加した。 ②電話、訪問等で随時、予算執行等の助言等を行っている他、モデル地区からの困り事、実情把握を行っている。具体的な事例としては、モデル地区大津から食材調達の相談を受け、保護司からの農作物の提供を橋渡しした他、モデル地区守山からの就労支援に関する相談に対応した。	1
３「生きづらさを抱えた人達」を支援するための基盤整備に取り組もうとする更生保護団体地区（モデル地区）を掘り起こす。	①モデル地区を掘り起こすための事業協会の活動数	①更生保護関係者向けの本事業の説明会のため、全保護区の更生保護団体を９回／年以上、訪問する。	2023.3	令和４年５月から７月にかけて全保護区を事業協会職員が巡回し、息の長い支援の必要性等を説明する機会を得た（合計１０回）。	1
４県内の更生保護関係者に対し、「生きづらさ」への理解、「息の長い支援」の必要性等が促進されるよう必要なスキル、ノウハウを習得する機会を提供する。	更生保護関係者全体に向けての「生きづらさ」の理解促進や支援スキル、ノウハウ向上に資する活動回数	年間１回以上（３年間で３回以上）	2022.3	未実施 （今後の予定：令和４年１０月２３日甲賀地区更生保護女性会研修に事務局長が講師として参加した他、令和５年２月に大津保護区保護司会（滋賀部会、高島保護区保護司会にて研修会開催予定）	3

５滋賀県内の各市町関係者及び県民の更生保護への理解が深まる状態になる。	事業協会による県民向けの更生保護への理解促進のための活動回数 （息の長い支援活動パネルの掲出活動等）。	年１回以上（３年間で３回以上）	2023.3	彦根市のＶＩＶＡＣＩＴＹ彦根（6 月２６日～７月４日)、大津保護区保護司会によるピアザ淡海での大津更生保護関係者の集い（9 月 6 日)、京都信用金庫各支店（7 月 1 日～現在まで）等でパネルを掲出。 （今後の予定：令和４年１１月１日大津ロータリークラブにおける活動報告）	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：

2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 　令和 4 年 7 月号の「更生保護びわこ」にモデル地区の活動を掲載した。 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

添付資料

モデル地区守山　映画会（R4.8）

モデル地区高島　子ども食堂準備（R4.4）